

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和元年7月22日 ~ 令和2年3月13日
調査研究事項	《委託研究Ⅲ》 ア 教育課程に関すること イ 教職員の配置・研修に関すること ウ 環境整備に関すること エ その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	ア 教育課程に関すること ・別紙のとおり イ 教職員の配置・研修に関すること ・別紙のとおり ウ 環境整備に関すること エ その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究の成果	ア 教育課程に関すること ・別紙のとおり イ 教職員の配置・研修に関すること ・別紙のとおり ウ 環境整備に関すること エ その他夜間中学における教育活動充実に関すること ・別紙のとおり

(別紙様式)

## 事業完了報告書

### 【大阪市立天満中学校夜間学級】

#### 1 調査研究のねらい

(学習指導に関すること。)

- ・効果的な学習指導のあり方について研究し、生徒個々の課題に応じたきめ細かな指導方法を確立する。

(教職員の配置・研修に関すること)

- ・多様な生徒の受け入れに対する教職員の資質向上と、サポーターやボランティアの活用を考慮した学校・学級経営のあり方について研究し、学校力を高める。

#### 【課題】

- ・日本語指導の必要な生徒に対する日本語指導
- ・日本語の習熟度に課題のある生徒に適した教科指導
- ・高齢者に対する効果的な学習指導
- ・国籍や年齢の差が原因となって起こる生徒間の課題の対処

#### 【その課題を持つこととなった背景等】

- ・4月に22人の日本語が全くわからないネパール出身の若い生徒を受け入れた。さらに、今春2月に高校受験をした中国出身の生徒もいる。日本語指導の必要な生徒の入学が増え、その対応に追われた。非常勤講師に日本語指導を担ってもらったが、人数の多さと、指導力には課題が残る。さらに、母語サポーターの活用も今後の課題である。
- ・ネパール出身の若年層が入学して平均年齢が46歳に若返ったことから、これまでとは異なる指導と支援体制が必要となった。
- ・在籍生徒の年齢が16歳から91歳までと幅広く、学習内容への興味関心の示し方や、習熟度の個人差が大きい。
- ・文化や言語の違いにより、意思疎通が困難な場合がある。学習の基本になる日本語力の養成が課題となっている。

#### 2 調査研究の成果

##### (1) 本年度の取組について

調査研究のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と情報収集を柱に次のような取組を行い、実践に結びつけた。

##### ① 教員研修

- ・毎月、日本語担当者が全員集まり、日本語指導が必要な生徒の指導法について協議し、実践に結び付けた。
- ・日本語指導について、12月に日本語指導補助員を招き、研修会を実施した。
- ・生徒とのコミュニケーションをより円滑にするため、『やさしい日本語』を学んだ。

##### ② 情報収集

- ・12月、全国夜間中学校研究協議会全国大会(於:神戸)に参加し、教科別分科会や領域別分科会の報告において、夜間学級の実態を学び、本校での今後の活動の進め方について参考にした。また、生徒同士の交流の場に参加することで、思いや課題を共有した。

### ③ 授業実践

- ・研修や情報収集で得た情報を教職員の間で共有し、学習内容や指導法の改善をした。その際、教科担当の枠を離れてのチームティーチングや、免許外申請を行った上で、他教科の指導に参画した。
- ・文集作成を目標に、年間を通じて計画的に指導を続けた。その結果、文字獲得の成果を実感し、さらには自己表現の場を得ることで自尊感情へと結びつけることができた。

### ④ 文集「ともしび」の取組

- ・国語科と学級活動の時間を通して、自らの生活体験を書いた。自分の考えや生い立ち、つらかった体験を書くことで、それを共感的に受け入れられたりする経験は、自尊感情を育み、生きる力の源となっている。

## (2) 改善充実の成果について

- ・研修を通して、生徒一人ひとりの幅広い教育課題の解決法を学んだ。中学校夜間学級の教科指導については、実践報告の文献等の資料が少ないため、夜間学級相互の交流の場で有意義な研修ができた。
- ・本校は、「生活体験発表」「国際クラブの発表」「作品展示」などの行事で昼と生徒との交流を続けてきたが、他の中学校夜間学級での学習活動時の交流や授業参観を通じて、教科担当者の意識改革につなげた。
- ・生徒交流の場では、生徒に人前で意思表示をするなど、義務教育で経験の機会を取り戻させることができた。生徒の自尊感情を高まる様子を実感し、改めて中学校夜間学級で学ぶことの大切さを再認識できた。

## 【大阪市立東生野中学校夜間学級】

### 1 調査研究のねらい

(学習指導に関すること。)

生徒の学力実態を正確に把握し、その学力に応じた教育内容と教材を用意するとともに、効果的な指導方法についての研究と自ら学ぶ意欲を育てる教育活動の研究をする。

### 【課題】

- ・国語能力の向上と興味・関心に応じた教材づくり
- ・日本語の習得度が低い生徒に適した教科指導
- ・体育・美術・家庭科の授業での高齢者への教材の工夫
- ・既卒生徒への指導
- ・大阪府以外から通う生徒の指導

### 【その課題を持つこととなった背景等】

- ・70歳以上の生徒が全体の59.8%を占め、また韓国・朝鮮にルーツのある生徒は90%を超えており、生徒の日本語取得状況や学習の習熟度に差がある。そのため、個に応じた効果的な指導方法を研究する必要がある。また、数年前より義務教育を修了した方でも、条件によって夜間学級に入学できるようになったため、今年度、既卒生徒数が8人になった。また、今まで居住地が大阪府内に限られていたが、今年度より大阪府外に住所があっても入学が認められるようになったが、そのような生徒はまだ入学していない。

### 2 調査研究の成果

#### (1) 本年度の取組について

調査研究のねらいを達成するため、本年度は、研究授業と情報収集を柱に次のような取組を行い、実践に結び付けた。

##### ① 研究授業

- ・11月、全教員が各教科の指導案を作成しての研究授業を実施した。教員が相互に授業参観を行い、生徒の実態に合わせた教材準備とその指導方法について意見交換した。今後の教科指導や学習内容の改善、充実を図った。

##### ② 情報収集

- ・12月、全国夜間中学校研究大会兵庫大会に教員13名、生徒29名が参加し、交流および意見交流を行い、自己表現力等の育成方法・教材開発についての情報を得ることができた。

##### ③ 授業実践

- ・学習評価や研修等により収集した情報を活用し、学習内容の充実と学習教材の開発を行った。さらに、より豊かなコミュニケーション力が持てるよう日本語の学習に重点を置き、文集指導を通じて日本語能力の育成と学習意欲を育てる教育活動を行った。

#### (2) 改善充実の成果について

- ・文集指導を行うことによって、生徒の内面に深く関わることができ、生徒理解につながった。
- ・研究大会の参加によって、生徒の自己表現力の育成や教材の開発について、教員間で研究および考察することができた。
- ・きめ細かい指導を継続することによって、生徒の学習意欲の向上に効果があった。
- ・既卒生徒のほとんどは高齢であり、そのため在籍している生徒と同じ教材を使って一緒に学ぶことができた。

## 【大阪市立天王寺中学校夜間学級】

### 1 調査研究のねらい

(学習指導に関すること。)

国籍や年齢層の多様化、さらに、異なった生活習慣などが近年の生徒のおもな特長となっている。また、一様に義務教育未修了者または形式卒業者であり、生活に必要な学力・日本語習得が不十分であるため、生徒のほとんどは、日常生活・就労に困難を感じている。本校では、そのような生徒実態に鑑み、まず日本語表現力を高めるための学習をすることを行い、より豊かな言語感覚の習得をめざす。そのため、基本的な日本語理解を高める指導のあり方について調査研究し、生徒の学力向上に資する。

### 【課題】

- ・ 教科学習に必要な日本語学習指導
- ・ 日本社会における基礎的な学力指導と日本社会で生活に必要な情報の伝達
- ・ 日本語でのコミュニケーション能力をつける指導
- ・ 人間関係を円滑にできる能力育成への支援
- ・ より一層の生徒理解力の涵養

### 【その課題を持つこととなった背景等】

- ・ 義務教育未修了により、生活に必要な学力、日本語習得が不十分である。
- ・ 既卒入学者についても、不登校等の影響により十分な学力が身につけていなかったり、対人関係で悩んだりしている生徒、あるいは、さまざまな精神疾患に悩む生徒が多い。
- ・ 就学経験がほとんどないため、学習の方法や学校文化が身につけておらず、ひいては社会性の欠如につながっている生徒や自尊感情を築けないままの生徒がいる。
- ・ 多様な国籍の生徒同士での人間関係の構築が難しく、また、多くの新渡日生徒は、日本社会で尊重されている細やかな感性に慣れていないため、自信のないまま過ごしている。

### 2 調査研究の成果

#### (1) 本年度の取組について

調査研究のねらいを達成するため、文集「わだち」の製作とその発表、生徒会活動等における群読指導を柱に、次のような取組を行い、実践に結び付けた。

#### ① 文集「わだち」の取組

- ・ 4月、各中学校夜間学級の文集を収集し参考に、文集「わだち」実施の年間計画を協議し、共通理解した。
- ・ 11月、国語科・学級活動等で「わだち」作成の取組を行った。
- ・ 2月、「わだち」をもとに「語り合う会」等で発表・意見交流を行い、生徒一人ひとりの表現力の涵養を図った。義務教育年齢の頃に、戦争や貧困、病気、差別、家庭事情等の理由により学ぶ権利を奪われてきた過去を持つ生徒にとって、その当時を中心とした自分史を発表したり、それを共感とともに受け入れられたりする経験は、自尊感情を育み、生きる力の源となる。
- ・ 通年にわたり、日本の言葉や文化、習慣に触れさせることで、生徒の日本での生活に役立つ取組を推進した。

#### ② 教科学習に必要な基礎的日本語習得

- ・ 年間を通して、国語の習熟度別少人数授業と日本語補習を行った。今年度後半、日本語理解の不十分なネパール国籍生徒の入学に伴い、日本語指導専門の非常勤講師を招聘し指導を充実させたが、指導方法や教材活用など、指導に対する課題はまだ多い。

### ③ 授業実践

- ・ 1・2学期に昨年度までの「わだち」を教材として、教科指導および学級活動に活用した。
- ・ 生徒の習熟度、年齢差に応じて、習熟度別少人数授業や入り込みを行った。
- ・ 今年度は、日本語に不慣れな新渡日の外国人生徒に対して、最大週9時間の日本語指導を実施するため、日本語対応の非常勤講師を招聘し、日本語理解の一助とする取組を進めた。今後も継続して日本語指導教員の招聘を行う予定である。生徒一人ひとりの必要性に応じて、さまざまな日本語や日本の文学作品に接するとともに、国語科だけにとどまらず、生徒全体が取り組む群読等で、様々な場面で日本語に慣れ親しむ取組が進められた。その他、日本での生活に必要な文化・情報等について学習させることで、細やかな情感の感得、日本語での表現力の向上につなげるよう努めた。

### ④ 研修

- ・ 毎学期、生徒情報交換会・日本語担当者会を行い、一人ひとりの実態把握や指導方法について意見交換を行った。
- ・ 生きた日本語を学習する場として、全国夜間中学校研究大会兵庫大会の全体会や本校での学校交流に生徒を参加させ、日本語で発表させた。

### (2) 改善充実の成果について

- ・ 全教員が日本語指導に関わることで、生徒にとって多様な日本語習得の基本となった。また、それらが、教育相談等の生徒理解の充実につながり、よりきめ細かな生徒対応が可能となった。
- ・ 教科学習での理解度は不十分であるが、授業をはじめとする学校生活全般に対する満足度や安心感が、大いに高まっている。
- ・ 学校行事への生徒の積極的な参加が見られ、初めて体験する行事でも興味深く参加していた。
- ・ 自らの過去を「わだち」で発表することが、同じ思いを持つ仲間から受け入れられるという意味で、生徒間の人間関係の改善に大いに役立っている。また、未就学により社会の差別や偏見を受けてきたつらい過去を乗り越え、社会に真正面から向き合う成長を見せている生徒もいる。さらに、日本の社会での常識的な考え方や生活の仕方を伝えることもできた。
- ・ 今後、日本語が全く理解できないまま入国し、日本語を学習できる場として中学校夜間学級を選択する入学希望者が増えると思われる。その方策として、日本語教員や通訳の増員、あるいは定数配置が望まれるところである。
- ・ 既卒不登校体験者のほとんどが人間関係のトラブル等で心的障害やストレス、あるいは精神疾患を抱えており、その個別の対応、また、教育委員会を介しての関係諸機関との緊密な連携の急がれることが確認できた。

## 【大阪市立文の里中学校】

### 1 調査研究のねらい（学習指導に関すること。）

義務教育の就学年数や入学目的の異なる生徒個々の状況に応じた教材作成及び、より効果的な指導法を調査・研究し、生徒の学力向上に資する。

## 【課題】

- ・高齢の生徒に対する効果的な学習指導
- ・日本語による支援を要する（主には外国籍の）生徒に適した教科指導
- ・小学校未修了者に対する各教科の指導

## 【その課題を持つこととなった背景等】

- ・戦争や、そのために引き起こされた貧困などが理由により義務教育の機会に恵まれなかった生徒が、仕事や家事などが一段落した後に中学校夜間学級で学ぶようになった。中には、小学校も十分に通えていない生徒もいる。
- ・本校に在籍する外国籍の生徒は、終戦後、日本が一定の経済的な復興を遂げた時期に渡日してきた。しかしながら、出身国では社会的基盤が整っておらず、義務教育が行き渡っていない現状があった。

### 2 調査研究の成果

#### (1) 本年度の取組について

調査研究のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と授業実践を柱に次のような取組を行い、実践に結びつけた。

#### ① 教員研修（5月、7月、12月）

- ・教材・指導法検討会議を開催し、生徒一人ひとりの実態把握と教材作成や指導方法について、意見交換をした。また、学期ごとの反省と課題の確認を行い、学習指導や学習内容の改善・充実を図った。

#### ② 情報収集

- ・年間を通じて、近畿夜間中学校連絡協議会が主催する教科部会に参加し、教材作成についての情報収集と意見交換を行い、授業改善の成果を得た。

#### ③ 授業実践

- ・収集した情報を活用し、生徒それぞれの課題に応じた教材を準備し、全教科学習の基礎となる日本語学習を重視した指導課程を編成した。国語、数学、英語の授業では、学級内における生徒の習熟度に対応するため、複数教員によるティームティーチングを取り入れ、きめ細かな指導を行った。また、美術、保健体育や技術・家庭科にも入り込み担当を配置し、実技的な教科の支援をした。

#### ④ 文集「雫」の作成

- ・語彙を広げ、表現方法を理解し、自分で文章を綴る力を身に着けた成果を発表する場として、生徒の文集「雫」を作成した。また、自分の思いを他者と共有できるよう、自身が書いた作文を朗読させた。

#### (2) 改善充実の成果について

- ・研修により、生徒個々の状況について全教職員の共通理解を図ることができ、より個に応じた指導を推進することができた。
- ・教科学習での理解度が向上し、授業における満足度が上がった。

- ・学校行事に積極的に参加するようになった。
- ・生徒に係る健康面の情報共有や、授業や学校行事における配慮をしたことにより、学校管理下での事故は起きなかった。また、学校外での病気や事故についても、健康教育の観点からの指導ができた。
- ・文集「雫」の学習活動では、文章を書く機会に恵まれなかった生徒が、これまでの経験や思いを自身で記し、それを発表する取組を通して、生徒の文章作成能力が向上していることを実感した。また、聞き手の共感を得ることにより、この取組が他者を通じて自尊感情を高めるという今日の人権課題における大きな目標を達成したと言える。さらに、互いに聞き合うことにより、相互理解することができた。また、教職員や来賓の前で朗読することは、これまでにない経験であり、生徒の内面に達成感など、新たな成長を見ることができた。